

国連気候変動枠組み条約第7回締約国会議 2001年10月29日月曜日

国連気候変動枠組み条約 (UNFCCC) 第7回締約国会議 (COP-7) は10月29日月曜日にモロッコのマラケシュで開会した。各国代表団は、午前中開会のプレナリーセッションで会合し、スピーチを聞くとともに、組織の問題を協議した。午後には、実施のための補助機関(SBI) および科学的・技術的助言のための補助機関(SBSTA)が別々に会合してその作業を開始した。SBI は、組織、運営、財政問題、非付属書I 諸国との連絡、COP により SBI に託された問題について討議した。SBSTAは、さまざまな組織上の問題のほか、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)による第三次評価報告書について検討した。

開会プレナリー

COP-6 議長の Jan Pronk (プロンク氏) が、月曜日の朝 COP-7 の開会を行った。同議長は、9月11日の出来事が国際的な合意に新たな光を投げかけていることを示唆して、ボンでの合意が、国連の枠組みの中でグローバルな問題を解決する上での、多国間主義そして国際的な協力の有効性を実証していると述べた。同議長は、COP-7 が、ボンでの合意を法的な言葉に直すプロセスを完成し、プエノスアイレス行動計画(BAPA)の作業を成功裏に完成させることへの自信を表明した。

その後、COP は、モロッコの Minister of Territory Planning, Urban Management, Housing and Environment (領域内計画、都市管理、住宅環境大臣) の Mohamed Elyazghi 氏を COP-7 議長に選出した。Elyazghi 議長は、代表団をモロッコへ歓迎する言葉を述べ、これがアフリカで開催される最初の UNFCCC COP であると付け加えた。同議長は、COP-6 のプロンク議長に対し、その忍耐力と、またプロセスに「忘れられない足跡」を残したことに感謝した。

マラケシュの地域カウンスル議長である Abdelaziz Saâdi 氏は、モロッコ国王モハメッド VI 世からの会議の成功への願望を伝え、また COP-7 は、気候変動と戦うための行動をやりやすくする上で大きな前進を遂げる機会を提供すると指摘した。マラケシュ都市共同体議長の Omar Jazouli 氏は、マラケシュのグリーンな伝統を保全し守る努力を紹介するとともに、廃棄物処理や運輸部門での温室効果ガス排出削減プロジェクトの概要を説明した。

UNFCCC の事務局長である Michael Zammit Cutajar 氏は、ボンでの合意が、交渉の大きな前進を表すものであり、多国間主義にとっての突破口であると述べた。同氏は、COP-7 での成功には、CDM の確固とした開始や、アフリカ諸国のニーズに特別な配慮を行うことを含む可能性があることを示唆した。

組織上の問題: Elyazghi 議長は、これまでに 42 の締約国が議定書を批准したことを指摘し、残りの締約国にも 2002 年のヨハネスブルグでの持続可能な開発に関する世界サミット

(WSSD)に間に合うように批准するよう呼びかけた。手続き上の規則に関して、COP は、規則 42 (投票) を除き、草案の規則を引き続き適用することを決定した。その後出席者は、非公式協議で取り扱われる UNFCCC 4.2(a)と(b)の適切性に関する第 2 回の検討「約束の検討」を除く議題を採択した。議長以外の役員の選挙は、協議を待って延期された。作業の構成について、COP は、代表団が、メカニズムや遵守、議定書 5 条(手法上の問題)、7 条(情報の連絡)、8 条(情報の検討)を取り扱う 3 つの交渉グループを再開し、LULUCF と、必要があれば P&Ms について、非公式協議を行うと、決定した。UNFCCC 事務局長の Cutajar は、中央アジア、コーカサス、モルドバのグループによる、「開発途上国」という用語を、草案決定書を通して「開発途上国および付属書 I に含まれない その他の締約国」とするという提案への関心を促した。

締約国の開会ステートメント:多くの締約国が UNFCCC 事務局長 Cutajar、COP-6 議長 Pronk そして事務局に対し、交渉での前進を実現するための計り知れない貢献に感謝した。G-77/中国、EU、CG-11 を含めた数人のスピーカーが、WSSD 前の議定書の発効を支持した。

G-77/中国を代表してイランは、COP-6 パート Part II から繰り越した作業の完了を支持し、このフォーラムは、途上国に対する新しい追加的な約束の問題を取り上げるのに適切なフォーラムではないと付け加えた。アフリカグループを代表して BURKINA FASO は、COP-7 が成功することへの国際社会の高い期待感を強調した。環境十全性グループを代表して、スイスは、交渉の現在の段階を COP-7 で完了するべきであると述べ、議定書発効の必要性を強調した。ガーナはアフリカのニーズに焦点を当て、アフリカ大陸は、温室効果ガスの最小排出大陸であり、気候変動にもっとも脆弱な大陸でもあることを指摘した。

マリは、LDCs を代表して発言し、途上国特に LDCs が、有意義な援助から便益を受けることを希望した。オーストラリアと日本は、「4.2 (a)条と(b)の適切性に関する第二回検討」の議題について、閣僚会議部分の前に協議し COP に報告するとの Elyazghi 議長の意図を歓迎し、COP-8 でのこの問題の全面的協議を待望していると述べた。EU は、約束についての検討は、COP-7 または WSSD で討議されるべきではなく、議定書がおそらくは COP-8 において発効された後で始めて討議されるべきであると述べた。

SBSTA

組織上の問題: SBSTA 議長の Harald Dovland (ノルウェー)は、SBSTA の第 15 回セッション 第一回会議を開会した。議題について、EU は、ハイドロフルオロカーボンとパーフルオロカーボンの排出制限に関する締約国および SBSTA による考察の運用上の部分を含めた決定書 17/CP.5 の検討を求めた。同代表は、さらに第一約束期間内で CDM の下に新規植林と再植林プロジェクトを含めるための定義および規則を作成するための参照用語に関し、SBSTA-15 で考慮するための、EU の提案を強調した。マレーシアは、サウジアラビアの支

持を受けて、CDMの規則と規定は、別々に議論されており、完成していないことから、これは時期尚早であると指摘した。Dovland議長は、EUの提案を配布すると述べた。

COPからSBSTAへの委託事項: IPCC第三次評価報告書 IPCC議長のBob Watsonは、第三次評価報告書(TAR)の統合報告書を紹介し、「気候システムへの危険な人為的干渉」の定義に対する科学的、技術的、社会経済的分析への貢献についての九つの政策関連の質問と回答、産業革命前の時代以後における地球の気候の変化、TARシナリオから出てくる温室効果ガス排出に伴う地域的およびグローバルな気候上、環境上、社会経済上の結果、気候の変動性や異常現象、突然/非連続な変化のリスク、気候、生態系、社会経済部門の変化に伴う慣性と時間規模、さまざまなレベルで温室効果ガス濃度を安定化することの意味、緩和のポテンシャルやコストと便益、および時間枠、気候変化と他の環境や開発上の問題との相互作用、を指摘した。

Dovland議長は、その後、SBSTAの将来的な作業におけるTARの意味合いと、IPCCへの要望について考えるよう出席者に求めた。EUは、SBSTAの作業におけるTARの意味合いに関するワークショップの開催を提案し、日本、カナダ、マレーシア、AOSIS、ノルウェー、スイス、オーストラリアはこれを支持したが、サウジアラビアは反対した。同代表はまたモーリシャス、ウガンダ、ハンガリーとともに、TARについてのより広範囲で他をしのぐコミュニケーションを考えることを提案した。サウジアラビアとG-77/中国は、途上国の科学者や英語以外の言語の文献を含めることを強調した。

マレーシアは、途上国、そして貧困にあるものの脆弱性を強調し、また韓国とともに、適応措置の検討を支持した。AOSISは、最近の出来事が多国間主義の役割を強調していると指摘した上で、気候変動へのグローバルな解決策の必要性を強調し、議定書の批准がその第一のステップであると述べた。

Dovland議長は、SBSTA-16前のワークショップの企画を含め、どう前進するかで合意の要素が出てきつつあることを指摘した。同議長は、Halldor Thorgeirsson (アイスランド)に対し、TARに関する決定書草案についての非公式協議を行うよう求めた。サウジアラビアは、COP-8での決定につながるようなワークショップの手配について、共通認識はないことを強調した。

SBI

組織上の問題: SBI議長のJohn Ashe (アンティグア・バルバドス)はセッションを開会し、その後SBIはその議題を採択した。議長以外の役員を選出に関し、Ashe議長は、協議が進行中であると述べた。

運営上および財政上の問題: Ashe 議長は、2000-2001 年の中間財務実績の決定書草案を作成し、寄付金の支払い遅延へ対応する可能なオプションについて非公式協議を持つと述べた。本部合意書の実施に関し、ドイツは、UN キャンパス建設、会議センターの開発、そして事務局スタッフやその家族に関連する事項についての進展を報告した。Ashe 議長は、決定書草案を作成すると述べた。

COP から SBI に付託された事項: WSSD へのインプットについて、Ashe 議長は、これが SBI の中ではなく、むしろ非公式協議の後、11 月 2 日金曜日の COP で取り上げられると述べた。COP に対する GEF の報告書については、この問題でのさらなる協議が、次の SBI 会合まで延期された。

UNFCCC 付属書 I と II のリスト修正への提案に関して、COP-6 パート Part I で提出されたトルコの提案に関する短い協議が行われた。Ashe 議長は、この問題と、付属書 I に自国の名前を付け加えるとのカザクスタンの提案についで、非公式な協議が行われると告げた。

政府間会議の調整: COP-8 の日程と場所について、COP 事務局長の Richard Kinley は、COP-5 で COP-8 の日程を 2002 年 10 月 28 日から 11 月 8 日と設定していることを代表団に連絡した。COP-7 期間中に申し出を受け取らなければ、COP-8 はボンで開催される。アルゼンチンは、COP-8 が WSSD と近いことを指摘し、COP-8 を 2003 年初めに延期することを提案した。サウジアラビアとクウェートは、COP-8 の予定されている終了時期がラマダンの始まりと重なっていることを指摘し、1 週間早めることを提案した。

2005-2007 年の会議主体の会合日程について、Richard Kinley は、国際的な日程への圧力が増していることを指摘し、コストのかかるキャンセルを最小限とするため、先んじた計画の重要性を強調した。アルゼンチンは、日程は環境統治というより広範囲な考え方の中で検討されるべきであると述べた。Ashe 議長は、この問題と COP-8 の日程および場所についての非公式協議を行うと述べた。

非付属書 I コミュニケーション: 非付属書 I 締約国からの国別報告書について、SBI は、第三次の編集と当初の報告書の統合を検討した。米国は、Consultative Group of Experts (CGE) からの推薦案を UNFCCC 報告ガイドライン改善へのベースとして検討するよう提案した。On the report of the CGE からの報告書について、カナダは、オーストラリアとともに、この報告書と COP-6 パート II の資金パッケージの間に重複がある可能性があることを指摘し、調整するよう提案した。EU は、オーストラリアとともに、この報告書が、UNFCCC ガイドライン改訂版を始める上で健全な土台を提供すると述べたが、マレーシア、中国、アルゼンチンはこれに反対した。アルゼンチン、パナマ、ブルキナ・ファソは、ホスト国の開発プロセスに、国別報告書の作成を組み入れる必要性を強調した。Ashe 議長は、この問題は、資金や技術面でのサポート提供とともに、非公式グループでさらなる検討が行われると述べた。

廊下にて

COP-7 開催日が近づくにつれ、多くの出席者が、結果の成功の見通しに楽観的であるように見えた。一部の人々が、ヘーグやボンで多くのベテランの代表が感じた「交渉の疲れ」は、比較的大きな事柄のない第一日で明らかであったと示唆した一方、何人かの代表は、京都議定書を批准可能にするため、マラケシュで3年間の交渉を完結するとの「静かなる決意」を窺てとった。何人ものオブザーバーも、この前の COP と比較して、この会議でのより「おさえた」雰囲気は、作業を完了するのに適した雰囲気を提供するかもしれないと推測している。

今日の注目

SBI: SBI は、LDCs に関する事柄、付属書 I 諸国国別報告書、その他の事柄について検討するため、Plenary I で午前 10 時に会合する。

SBSTA: SBSTA は、手法上の問題、技術開発と技術移転、その他の問題について討議するため、Plenary II で、午前 10 時から午後 3 時まで会合する。